

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970600397		
法人名	有限会社おいてか		
事業所名	グループホームちゃんて		
所在地	奈良県桜井市大福233番の16		
自己評価作成日	平成29年11月27日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiyosyoCd=2970600397-00&PrefCd=29&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3F		
訪問調査日	平成29年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の行事やレクリエーションに力を入れており、スタッフや御家族様、地域の方やボランティアの方々のお力をお借りして、様々な事にチャレンジし、また、食事や洗濯物に関しても『利用者様と共に』を大切に日々送っています。利用者様の状態が日々変わる中、力を合わせて『安心と安全、楽しい暮らし』を追究し続けております。又、スタッフの離職が少なく、ご利用者にとっての『なじみの関係』が維持継続されているグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は桜井市で最初のグループホームで、近鉄大福駅前とても便利なところにある。グループホームを一つの家族と考え、利用者の個性を大切に、毎日笑顔で暮らせるよう支援している。職員が元気なことが、利用者の元気につながるの思いから、職員の笑顔も絶えることがない。気候に関係なく季節を楽しみながら、散歩することを日課としており、日々の食材を買いにスーパーにも出かけている。利用者が食べたいものや行きたいところなど、自由に言える雰囲気のある事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>入所されたご利用者が今までの交流関係や日々の日課を出来る限り継続できるよう、支援を行う。</p>	<p>グループホームを一つの家族と考え、利用者の個性を大切にし、笑顔で暮らせることを大切にしている。また、職員が元気が利用者の元気につながるという信念のもと、3つの「安全行動指針」をつくり、毎日唱和して実践している。</p>	
2	(2)	<p>○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の病院、寺院、公民館等と交流を持ち、地域の方々々と顔見知りになる機会を作っている。</p>	<p>自治会に加入し、利用者のほとんどが近隣の町村の方であり、自治会主催の敬老会やクリスマス会、風船バレー大会などに参加し地域の方と交流している。民生委員が地域の高齢者の方に配る干支のカードを利用者も一緒に手作りしている。</p>	
3		<p>○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域主催のイベントに参加し、グループホームの取り組みと認知症へのご理解を呼び掛けている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議に参加頂いた方々の専門的知識を参考にし、サービス向上に生かしている</p>	<p>運営推進会議は、今年はまだ1回も開催できていないが、12月中に開催する予定である。今後は、会議の回数を増やし、積極的にサービスに活かす予定である。</p>	<p>運営推進会議は、年6回開催されることが望まれる。市の担当職員が地域包括支援センター、地域代表、民生委員、利用者家族などに参加を呼び掛け、定期的に開催し、意見や要望を話し合いサービス向上に活かす取り組みを期待する。</p>
5	(4)	<p>○ 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者との連絡を深めるため、月に一度手紙とホームの月刊誌を届けている。</p>	<p>2ヶ月に1回、市主催の地域密着型サービス部会に出席し、協力関係を築いている。地域包括支援センター主催の会議にも出席している。生活保護の利用者の方が5名おられ、市の担当課職員とは緊密に連携して支援している。</p>	
6	(5)	<p>○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>社内研修にて身体拘束をしないケアをテーマに職員全員で話し合う。又、月に一度の定例会議でも見直しを行う</p>	<p>事業所内研修で年1回必ず身体拘束について取り上げ、事例を挙げながら研修して実践に活かしている。居室に夜間見守り用カメラが設置されているが、見守りの必要のない居室にはカバーをかけプライバシーを守るよう配慮している。</p>	
7		<p>○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>社内研修にて虐待の防止をテーマに社内研修を行う。又、月に一度の定例会議でも見直しを行う</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて権利庇護をテーマに社内研修を行う。又、月に一度の定例会議でも見直しを行う		
9	○	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	体験入所していただき、ご本人、ご家族との十分なご理解と納得を得てからのご契約としている		
10	(6) ○	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望や意見は定例会議で話し合い、可能であれば実践を行い、運営に反映させている。	利用者ごとに担当職員を決め、意見や要望をしっかりと聴ける対応をしているので、利用者から職員に何でも意見を言いやすい雰囲気がある。利用者が行きたいところや食べたいものなどの要望をできるだけすぐに実現できるよう努力している。	
11	(7) ○	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や、食事会を開き、話し合う場を設けている	毎日の活動の中で、施設長や管理者に意見を言いやすい雰囲気があり、職員は要望等を直接伝えており、重要なことは月1回の定例会議で提案している。また、施設長は食事会を開き職員から率直な意見を聴く機会を設けている。	
12	○	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の余暇を有意義に過ごせるよう、勤務時間や、条件の整備を個別に行っている		
13	○	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールに社内研修および社外研修を盛り込み、職員の定期的なリカレント、ブラッシュアップを行う		
14	○	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互、イベントに参加し合い交流を深める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、しっかり時間をかけて、ご本人の安心を確保していく。スタッフは守秘義務のもと、ご本人の環境や状況、性格等、情報を共有しよりよい関係作りに励む		
16	○	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人を前にして言い辛いことなど、面談、電話、時間構わず承る		
17	○	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談の際にご本人の必要とする介護支援、ご家族が望まれる介護支援を見極め、グループホーム入所が相応しいかどうか、判断により助言を行っている。		
18	○	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の得意分野で日常の役割を担って頂いている。調理、掃除、洗濯をスタッフと共に、リビング、室内の飾りつけを皆様と共に。		
19	○	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が、自由にご本人に会えるよう、24時間面会できる又、絆をより良く維持出来るように、互いに支え合う関係作りを大切にしている。		
20	(8) ○	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が、入所後も会いに来れる、又、会いに行ける関係をサポートしている	利用者のほとんどが近隣の町村の方なので、家族だけでなく、近所の方や知人が訪問している。生活保護の利用者の方には、顔見知りの民生委員の方が面会に来られる。また、自治会の行事に参加して、地域の方と交流している。	
21	○	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご利用者同士のコミュニケーションを援助する。		
22	○	関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	交流を続けている。一週間に一度は遊びにきていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9) ○	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で希望や意向を聞き賜っている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員と利用者との日常会話の中で、要望等を聴き、利用者がスーパーの広告を見て食べたいものを要望したときは、一緒に食材を買いに出かけるようにしている。意思疎通ができていく方も、思いをくみ取れるよう努力している。	
24	○	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談の際にご本人、担当の支援専門員から聞き承る		
25	○	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌と業務日誌にて日々の暮らし方や心身状態の変化を職員が共通認識している		
26	(10) ○	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケアカンファレンスにてスタッフおよびご家族の意見を聞き検討、参加できないご家族には電話やメール、手紙にて。	本人や家族の思いを踏まえ、職員カンファレンスで得られた情報や診療所の医師の助言をもとに介護計画が立てられている。利用者の「生活全般の解決すべき課題」を見つけ、その改善に向けての計画が立てられている。	介護計画書の「解決すべき課題」という文言にとらわれず、日々の生活の中で利用者の笑顔が多く見られる取り組みも介護計画に盛り込むことを希望する。
27	○	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌と業務日誌にて日々の暮らし方や心身状態の変化を職員が共通認識している		
28	○	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	旅行や美術展示会の開催		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の寺院や老人会、子供会との連携を行う		
30	(11) ○	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療を手掛ける医院との連携	近くの協力医療機関から内科医が月1回訪問診療を行っている。内科の協力医は、地域医療が専門で24時間対応してくれる。歩ける利用者は歩いて通院している。歯科や眼科には、職員が付き添って受診している。	
31	○	看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を大切に行っている。		
32	○	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携体制を整え、ご利用者への医療的サービスを十分に行えるようにしている		
33	(12) ○	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体験入所時に当ホームの重度化及び終末期のケアの体制をご説明し、ご理解いただく。又、都度その時が来れば関係者と情報を共有し、一丸となり支援を行っている	開設当初から利用者を最期まで看取することを方針としており、契約書に明記して利用開始時に本人と家族に説明している。利用者が重度化したときは、再度家族の思いを確認し、協力医や訪問看護師と職員が連携して看取りのケアの体制をとっている。	
34	○	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて、看護師や専門職の助言の元、訓練を行っている。		
35	(13) ○	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々、当施設の避難経路、避難場所を周知いただき、職員は避難訓練を定期的に行っている	年2回、日勤や夜勤、火事や地震などを想定して避難訓練を行っている。消防署と連携して、通報訓練も行っている。日ごろから、避難所への道を散歩のコースに取り入れている。飲料水や食料、ローソクなどを備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14) ○	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	社内研修にてプライバシーの確保に対する研修を行っている	一人ひとりの人格や個性を大切に、個別支援に力を入れている。利用者の名前の呼び方や声掛けの方法も、研修を行い共通理解している。夜間利用者の転倒予防など早期発見、見守りのため、居室にカメラを設置しているが、見守りの必要のない居室にはカバーをかけプライバシーを守るよう配慮している。	
37	○	利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者の希望や自己決定が出来るように支援を行う。食事メニューや衣類の選択、希望など、日常生活で選択を楽しんでいただく		
38	○	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操の時間で、職員はご利用者と談話しながら、それぞれの今日一日の暮らし方や希望を聞き承る		
39	○	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマやカットは美容師の訪問サービスでも楽しむことが出来、日々の生活でもおしゃれを楽しめるように声掛け支援を行っている		
40	(15) ○	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューには出来る限りご利用者の希望されるものを取り入れ調理から配膳も「楽しい話題」としてコミュニケーションを図りながら行う	食事は、利用者の要望を取り入れて事業所で職員がすべて手作りしている。施設長が栽培した野菜や近所の方からいただいた野菜も利用し食卓に上がっている。利用者も食事の準備を手伝い、職員と一緒に食事を楽しんでいる。2ヶ月に1回は、外食に出かけている。	
41	○	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌、業務日誌を活用し、水分と栄養面を職員全員が把握できるようにしている		
42	○	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、職員がご利用者と一対一で支援を行い、もれ落ちなく汚れを落とせているか徹底して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を活用し、それぞれのリズムや時間経過を見計らい、トイレ誘導を行えるように工夫している。	各利用者の排泄パターンを把握し、適切なタイミングで声掛けやトイレ誘導を行っている。おむつ外しにも積極的に取り組み、布パンツに移行した方もいる。重度化した方も、一日に1回は、トイレに座って排泄できるよう支援している。	
44	○	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ばず影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿チェック表を活用し、個々の排便が問題なく行われているかチェックしている。又水分量、運動量なども把握、調整を行い、無理なく排泄できるよう心がけている		
45	(17) ○	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設の浴槽以外に、温泉へ出かけ入浴を行っている。ご利用者の意向や、季節などによって、入浴時間を変更している	入浴は週3回、基本的に夕食後に入ることができる。利用者の希望に沿って、順番や入浴方法などを変えている。温泉に出かけることもある。入浴剤やゆずを入れて楽しんでいる。	
46	○	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠時間を日誌により職員は把握。場合により日中のお昼寝、早めの就寝などで調整を行う。「よく働き、よく笑う」。をモットーに充実した日中を過ごしていただく。		
47	○	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人日誌に各利用者ごとにファイリングされた処方箋と業務日誌にてスタッフは共通認識を行っている。		
48	○	役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意なことや、やりがいを感じれることを、日常生活、集団生活の中で活かす取り組み。		
49	(18) ○	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	温泉、お花見、買い物など、ご利用者様のご希望の場所へ足を運ぶ。その際、ご家族様もご同行いただける場合は、快くおねがいさせて頂いている。	気候に関係なく季節を楽しみながら、散歩することを日課としており、外出者の記録を日誌につけている。日々の食材を買いにスーパーに利用者とは出かけている。また、車で花見や温泉などに遠出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は買い物外出時に一对一の支援のなか、買い物を楽しんでいただく。		
51	○	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援の中で、スタッフが相手となり、やり取りを楽しむ機会を作っている。		
52	(19) ○	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生管理者、レクリエーション管理者が中心となり、ご利用者が季節感ある中、快適な生活が送れるように工夫を行う	居間の周りに居室が配置され、中央にカウンター式のキッチンがある。居間は天井が高く、天窓があって開放感がある。居間には、管理者が描いた大きな絵画が掛けられている。壁には利用者の写真や似顔絵などが貼られている。	
53	○	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	教養空間に3つのテーブルを用意している。おしゃべりテーブル テレビテーブル 一人の時間テーブル		
54	(20) ○	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所決定時より、ご本人ご家族と相談の上、管理者が担当となり使い慣れたものを持ち込ませていただく。その後もレクリエーションの一環で居室の様様替えを楽しむ	居室入り口には、異なるフルーツの飾りがつけられ、利用者が部屋を間違わないよう工夫されている。居室は、4.5帖ほどの広さでベッドが置かれている。使い慣れたタンスが置かれ、その上に思い出の品や家族などの写真が飾られている。	
55	○	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの「ひとりで出来るためのヒント」を各スタッフが考案し安全で自由ある暮らしを提供できるよう努めている		